熊日1957.11.30

水俣病の原因究明

東京で研究報告会

中枢神経がおかされ手足のきかなくなる水俣市の奇病水俣病の第二回研究報告会は二十九日午前十時から東京港区国立公衆衛生院疫学部長室で尾村厚生省環境衛生部長、松田同院疫学部長、尾崎熊本大学医学部長、川越国立衛生試験所食品部長、池田同薬理部長、守住熊本県公衆衛生課長、細川新日本窒素水俣付属病院長らが出席してひらかれ、衛生院、衛試、日窒など各関係者から原因物質についての分担研究のデータの発表が行われた。その結果「化学毒物としてセレン、マンガン、タリウムが主として疑われる」とつぎのような結論を出した。なお今後は主に現地の魚介類、泥土の化学毒物学研究に中心をおいて、原因の解明が行われる。

△研究成績概要　水俣病は水俣湾内の魚介類の摂取または投与することによって、ネコその他の動物にも自然的にまたは実験的に発症、その病理学的所見は人の場合とよくにている。魚介類を与えて発症したネコの臓器の中にも、現地の泥土の中にもマンガンおよびセレンがみとめられる。セレン化合物の実験の場合とセレン含有量は大差がない。中毒症状はタリウム中毒症状によくにている。この結果、水俣港湾内である種の化学毒物によって汚染をうけた魚介類を多量摂取することによって発症する中毒性疾患でその化学毒物として現在の段階ではセレン、マンガン、タリウムが主として疑われる。